

本日 10 時に京都市交通局からも京都市政記者室に送信しています。

NEWS RELEASE



2020.11. 5 <計3枚>

京都大学記者クラブ加盟社 各位

立命館大学広報課

京都市交通局と立命館大学映像学部の連携による
「観光の分散化」「マナー啓発」PR 映像の制作について
— 大学生の若い感性により企画・制作された斬新な PR 映像が完成 —

映像学部(※1)は、正課授業である「社会連携プログラム」において、京都市交通局と市バス・地下鉄の PR 映像の制作に取り組み、今年度は、「観光の分散化」および「マナー啓発」をテーマに映像を制作しました。本 PR 映像は 11 月 9 日(月)から四条駅および京都駅のデジタルサイネージに掲出されます。

映像学部は、2007 年の開設以来、コンテンツ開発の現場を授業の中で体験し、実践的な知識と技術を習得できるよう、企業や学外機関と連携して、具体的な目標や目的をもったコンテンツの共同開発、共同研究を実施する科目「社会連携プログラム(※2)」を設置しています。京都市交通局との社会連携プログラムは 2017 年 4 月から開始し、学生たちは市バス・地下鉄の PR をテーマに自ら企画立案・映像制作に取り組み、発信を行ってきました。

今年度は、一部の観光地に観光客が集中し、混雑してしまうことが課題であったことから、「観光の分散化」および「マナー啓発」をテーマに PR 映像の制作に取り組みました。

京都の魅力的な「穴場」を紹介し、観光客の分散化を図ること、また、市バスと地下鉄の利便性と共に利用時のマナーを強調することで、より多くの人に安全にかつ快適に利用してもらうことを目指し制作しています。特に今年はコロナ禍での観光を意識し、地域による観光の分散化のみならず、時間帯による分散を進めていることで「三密」を回避できるよう工夫した映像もあります。

企画立案においては、必要なりサーチ、企画設計、企画書作成などの知識を身につけ、実践することで理論と実践の両側面から動画制作について学んでいます。

本取り組みは、学生の学びの場としてだけでなく、公共交通の利用促進にも寄与することを目指しています。

記

掲出開始日：2020 年 11 月 9 日(月)以降順次

掲出場所：四条駅、京都駅のデジタルサイネージ

※地下鉄四条駅は北改札口、京都駅はコトチカ広場に設置しています

映像内容：別紙参照

制作メンバー：映像学部の授業「社会連携プログラム」受講生 11 人(2 回生以上)

以上

●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学映像学部事務室 担当:石原

TEL. 075-465-1990

※1 立命館大学映像学部について

アート、ビジネス、テクノロジーを総合するアプローチで映像分野における「プロデュース」能力を育成し、社会の活性化と生活の質の向上につながる映像文化を創造する人材の育成をめざす目的のもと、日本で初めて映像に軸をおいた総合大学芸術系学部として2007年に開設。

2024年には映像学部・映像研究科の新展開として、大阪いばらきキャンパス(OIC)にも展開することが確定しています。

※2 社会連携プログラムについて

映像学部は、開設以来、実際のコンテンツ開発の現場を授業の中で体験し、実践的な知識と技術を習得するため、企業や学外機関と連携し、具体的な目標、目的をもったコンテンツの共同開発、共同研究を実施する科目「社会連携プログラム」(2020年度は9クラス開講、82名が受講)を設置しています。

京都市交通局とは、2017年度から連携し、市バス・地下鉄のPR映像を制作しています。この連携事業は、若い感性による斬新なPR動画の制作と、広告制作過程の体験による学生の実践的な学びを通じた人材育成を目的としています。

映像内容 (各動画 30秒)

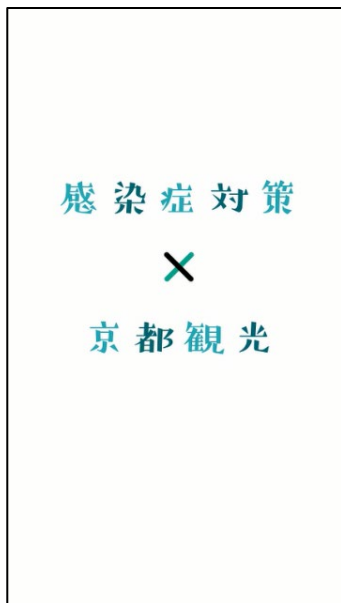
(1)1班



★ポイント

「京都の景色」と「ホームでの事故」という2つの方向から、「ながらスマホ」によって見落としているモノの重要性を投げかける。前半は「今何が見えましたか?」をキーワードに見た人の興味を引き、後半は「歩きスマホ」をしている人の目線から描くことで、誰にでも起こりうる危険性を示す。

(2) 2 班



★ポイント

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、「時間・場所・季節」における密を防ぐため、京都を訪れた方々がこのような状況下でも安心して楽しく観光していただけるよう「観光の分散化」を呼びかける動画を制作。

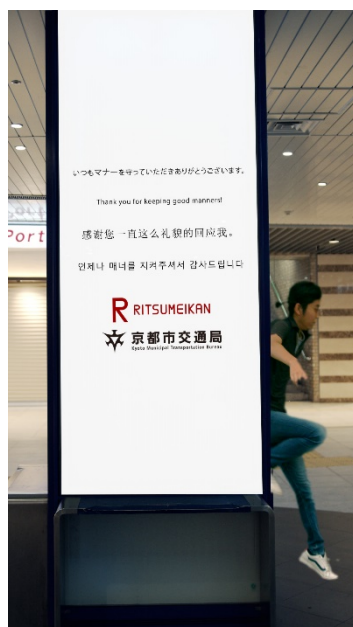
(3) 3 班



★ポイント

「あくび」という他者に比較的伝染しやすい行動を取り入れることで、興味を示してもらい、内容が記憶に残りやすくなるのではないかと、というアイデアをもとに、「まだ見ぬ京都へ」と呼びかけることで、観光の分散化を図る動画を制作。

(4) 4 班



★ポイント

乗車マナーが守られていない世界から、交通局と立命館大学で連携したマナー啓発動画をデジタルサイネージで放映したことによって乗車マナーが守られている世界へと主人公がやってくるストーリー。外国人にも理解していただけるよう、ほとんどの情報をイメージで見せる作品を制作。